

の發展は大に有望とされてゐる。委任統治をうけた國は英國であるが、この古代バビロンアツシリア文化の榮えた沃土が灌溉の力によつて再び榮華を回復し、せめて西曆八世紀から十三世紀の間にこの地に隆盛であつたアバシッド王朝時代の回教文化を振起するならば、世界は英人の努力に感謝の辭を捧げるであらう。

質疑應答

問 グラン、チャコ (Gran chaco)

答 南米の各國は歴史も新しい上に、地理が十分明でない未探檢の所を持ちながら各獨立した故に、各國の間の國境に關して所々に争論の種子が多い、例令はペルーとホルビアのチ、カ、湖北の境の如き漸く一九一一年に決定したのであり、ホルビアとブラシルとの境界のごときもアマソンの大森林地の間に設定したのであるから *Acre* 川の兩岸に兩國各出兵して大なる困難を冒したことであつた、こうした多くの國境の争の中にこのグランチャコも亦ホルビアとパラグエーの境界争になる種である、チャコといふはインヂアン語で獵場といふ名で禽獸が多い、アルセンチンの北境でホルビアとパラグエー三ヶ國の間に跨る所謂南米のメソポタミアの低原である、ラプラタ川の支流 *Picomayo* 川が斜に之を二分して亞國ニ勃國との境をなし *Paraguay* 川が

北から流れて三角の東境を限る、保争はこのピルコマヨ川とパラグエー川との間の部分で、ホルビアはこの三角地即パラグエー川の右岸に進入して河港をつくり、電信局を建て、軍隊を置いて、ホルビアの唯一の南東通商路たるパラグエー川に遠せんとしたので、殆んどホルビア領になつた處がパラグエーは其地方の古い植民の歴史から其國境の河の西にあることを主張した、蓋しこのグランチャコの平原は草原のみでなくて、熱帯森林もあり沼澤地もある、其森の中にはタンニンの原料として有名な *Quercus* があるパラグエーの資本でこの材木伐採所が多數川の西に出來て其或物は河から百哩も西の方に散在してゐる、牧場としての見込も多い、農業地としても亦將來があるから、兩國が之を争ふことになつたのである、一九一三年に兩國は從來の行懸りを全く白紙にした、而して兩國相互の間に於てこの國境所屬を新たに決定することになつた。しかし一九二六年の統計年鑑にはまだ決定したと書いてない、パラグエー川までがパラグエー本部であつて、チャコの部分は兩屬と見てよいやうである。(藤出)

問 ケニヤ (Kenya)

答 英領東アフリカは高山の名によりてケニヤ殖民地及ケニヤ保護領と稱せらる、東は印度洋北は一九二四年七月の條約によりて *Juba* 川を以て伊太利領と境し、南は *Umba* 川を以て舊獨逸領東アフリカと界し西はグイクトリア湖に達す、ケニヤ保護領とはタナ河口よりウムバ川に至る海岸

十哩の幅を限りたる地域にして、ザンジバルのサルタンに屬す、面積二〇九、二四八平方哩人口二、四七五、〇五九（一九二四）と推定されてゐる、この中にて白人の数は一萬一千人に過ぎず、海岸にはアラブ族居住し、内地にカラ族ソマリ族マサイ族等居住し、更に奥地はバンツ語屬の居住地と稱せらる、マサイ族は狂暴にして、屢掠奪に向ひしも、現今は温順となれり、海岸平地は熱帯低濕の地なるが、其幅狭くして高臺となり、サバンナの景觀にうつる、更に西の方東アフリカ地溝帯の附近に至れば森林繁茂し、猛獸の狩獵地として天下に名あり、最近風氣の開發の進みたるは全くりガンダ國有鐵道の開通せし結果にして、其起點をモンバサといふ珊瑚礁の上に立つ港市にして人口四萬、

（歐人八二）アフリカ東岸の良港をなし、ケニヤ保護領の首府たり、鐵道はこの島より内陸に入り直ちに高臺の上を走り地溝帯を横斷す、その海拔五千呎の地點にナイロビ市ありケニヤの首府にして人口二萬四千、氣温白人の居住に適し、附近に白人の家族の移住せるもの既に一千六百家族に達すと稱せらる、珈琲、棉花等の栽培に従事す、鐵道はナイロビより一旦地溝帯の低地に下り、有名なる曹達湖 Nakuru を迂回して、地溝の西側を登りグイクトリア湖畔の Port Florence に達す、グイクトリア湖上には定期船ありツガンダ地方の Entebbe に通す。

一八九五年本鐵道建設に際しては獅子の工夫を咬殺したること、犀が汽車の進行を止めたること、甲蟲の大群がレールを埋めて、車の回轉を不能ならしめたることなど報告

せられしが、今日に於ては植民地政府が禽獸の絶滅を思ひて、禁獵區を設定し一は鐵道の南に、一は Rudolf 湖の北に於て、これらの動物を保護するに至れり、ナイロビより輕便鐵道 Nagadi 湖に通す、こゝは化學的に純粹なる曹達湖として名高し、其他タンガニイカ地方への支線も近年多く建設せられたり。

問 アバデーン (Aberdeen)

答 スコットランド、アバデーンシヤイアの首府、北海に面し、Dee 川の北岸に建つ、北緯五十七度、西經二度に位す、新しき市はデュー川の北及西に廣がり、舊市は其北にありてドン川に近づく、新市は花崗岩を以て建てられたる尤も美はしき市街なれば一にこの市を Granite city といふ、一四九四年創立のキングスカンツヂ（舊市）一五九〇年以後合併して大學となる、舊市には花崗岩にて建築されし名所多し、港も亦この石材を用ひたる壯大なる防波堤を有し Petchhead と共にこの石材の輸出に於て有名なるが、其石磨きの工業尤も盛なり、其他木綿、毛織物、帆布、リネン等の織物業も夙に發達し、皮革、製紙、石鹼、工業等亦盛なり人口十六萬。

北米、南ダコタ州にも、アバデーン市ありミスシッピ川の支流 Tombigbee に臨み、鐵道回通す、河蒸汽船の終點と考へられ農産物の集散地たり、人口一萬五千、又ワシントン州にも同名の市あり人口一萬五千餘に達す、太平洋岸の一小港なり。